

FAX 2011/3/11
速報24 東日本大震災

発行：宮城県教職員組合（宮教組）
tel.022-234-0141 fax.022-274-2130 eメール mtu@rose.ocn.ne.jp
2011年6月28日（火）★増し刷り・回覧をお願いします。

小川講座特集 「小川嘉憲さんからのメッセージ」 先生たち 交代で休もう

24日石巻、25日気仙沼、26日亶理で開催された「子どものケアでと学校づくり 教職員に求められること」～阪神大震災の経験を宮城のみなさんへ～は計54名の参加で大変好評でした。小川さんは「つなぐ」をキーワードに「命」「声」「行動」の視点で経験を語られました。主な内容を紹介します。

<子どものこと>

- 被災時に低学年の子が3～4年後、高学年になって荒れたこと
- 被災地周辺の学校から荒れが始まったこと（ケアしなければならぬ子がいたのに目が行き届かなかった）
- 姿は一見元に戻っているが、気持ちは深く傷ついていること
- 表現できない低学年の子ほど、受け止め、抱きしめ、ケアをしてあげることが大切

<教職員のこと>

- 甚大な被災地と比べてうちは大したことないからもっとがんばらねばならないという気持ちをもってしまうこと
- 100日が過ぎてから不調を訴える先生が増えたこと
- 夏休みにしっかりエネルギーを充電すること。休もう！
- 2～3年後に「震災うつ病」になった教職員が多かったこと

<学校づくり>

- 今までどおりのことをやろうとすると歪みが出る。無理をしてはいけない
- これまでのやり方にこだわらず教師の創意で教育課程編成を
- 阪神大震災では100時間の時数不足は問題にならなかった。かえって大事なことを絞って教えた。時数不足の回復は長期間で

小川講座の【録音CD】と【講演レジュメ】をご希望の方にお分けします。支部か本部瀬成田までご注文下さい。

<参加者の感想より>

客観視する。ギリギリの判断で生死を分けてきた。生徒をかかえての避難だったら（卒業式後で生徒帰宅）どうだったか考えないことはありませんでした。今までは震災ハイのようにやってきたように思う。どこに足をすえて、何を大切にしていた。今日のお話で道筋が見えたように思います。（石巻・中学校教員）

8月12日・15日・16日・17日を 日直を置かない日とするよう 市町村教委にお願いする(県教委)

～空直日は仙台をのぞきます～

<夏休みの勤務に関する交渉より>

組合から、教職員が震災以降の激務で心身ともに疲弊している現状を訴えた結果、県教委は教職員が連続して休める環境づくりの必要性を認め、上記の回答をしました。

また、割り振り、手当が実績どおり実施・支給されていない現状を訴えたところ、県教委は「適切になされるべきだ」「手当の日数については一切限定していない」との見解を示しました。

★3,11以降の割り振りが取れていない場合は夏休みにすべてとるようにしましょう。

★避難所支援の特殊業務手当はすべて12,800円です。校舎管理のために勤務した場合の「宿日直手当」は5時間以上4,200円、5時間未満は2,100円です。※今からでも遅くはありません。校長に要求しましょう。

<学用品情報>埼玉の所沢市教組から次のものをいただいています。ご希望の学校はご連絡下さい。

- ◆絵の具セット23組 ◆習字セット 13組
- ◆ピアノカ4個（以上担当：瀬成田）
- 中央支部にも英和辞典・国語辞典（中学生以上）があります。（担当：金野）

<情報コーナー>～みんなで語り合いませんか

「震災体験から 地域・学校・子どもたちを」
※被災地の教職員など5名が震災体験を語ります。
7月2日（土）13：00～16：30 フォレスト仙台5・6会議室

みやぎ教育文化研究センター主催

宮教組女性部役選「投票」実施中～4日必着です。期限に遅れないようにお願いします。